

計画作成年度	平成27年度
計画主体	静岡県 森町

森町鳥獣被害防止計画

<連絡先>

担当部署名 森町 産業課 林政係
所在地 静岡県周智郡森町森2101-1
電話番号 0538-85-6317
FAX番号 0538-85-5259
メールアドレス sangyo@town.shizuoka-mori.lg.jp

1. 対象鳥獣の種類、被害防止計画の期間及び対象地域

対象鳥獣	イノシシ、ニホンジカ、カモシカ、カワウ、アオサギ
計画期間	平成28年度～平成30年度
対象地域	森町

2. 鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止に関する基本的な方針

(1) 被害の現状 (平成26年度)

鳥獣の種類	被害の現状	
	品 目	被害数値
イノシシ	稲	21 a 244千円
	果樹	27 a 879千円
	工芸作物(茶、コンニャク等)	80 a 1,829千円
	いも類	12 a 530千円
	野菜	47 a 3,728千円
	林産物(原木椎茸・タケノコ)	4 a
	合計	191 a 7,210 千円
ニホンジカ	稲	14 a 166千円
	果樹	25 a 814千円
	いも類	5 a 205千円
	林産物(原木椎茸)	59 a
	スギ・ヒノキの剥皮	—
	合計	103 a 1,185 千円
カモシカ	稲	4 a 49 千円
	野菜	2 a 121 千円
	林産物(原木椎茸)	79 a
	スギ・ヒノキの枝葉食害	—
	合計	85 a 170 千円
カワウ アオサギ	アユ	550kg 3,010 千円

(2) 被害の傾向

①イノシシ

イノシシによる被害は、年間を通して発生している。被害作物は、稲、茶、いも類、野菜など、収穫時期や作物の生長に合わせて多岐にわたっている。被害区域は町全域となっている。

②ニホンジカ

ニホンジカによる被害は、年間を通して発生している。被害作物は、スギ・ヒノキの剥皮や農林産物で、被害区域は北部三倉・天方地区の中山間地域を中心に町全域に拡大しつつある。

③カモシカ

カモシカについては、ニホンジカとの被害区別が難しいが、北部中山間地域において植林したばかりのスギ・ヒノキの枝葉や茶、野菜、林産物等の食害が報告されており、町内での目撃数も増加している。

④カワウ・アオサギ

カワウ及びアオサギについては、太田川流域のアユに対して被害が深刻である。また、住居に近い境内地が鳥の住処となっているため、鳥の大きい鳴き声や糞落下の被害もあり、住環境の悪化につながっている。

(3) 被害の軽減目標

指標	現状値（平成26年度）		目標値（平成30年度）	
イノシシ	191 a	7,210千円	171 a	6,489千円
ニホンジカ	103 a	1,185千円	92 a	1,066千円
カモシカ	85 a	170千円	76 a	153千円
カワウ アオサギ	550kg	3,010千円	495kg	2,709千円

(4) 従来講じてきた被害防止対策

	従来講じてきた被害防止対策	課 題
<p>捕獲等に関する取組</p>	<p>イノシシは、今まで町単独有害鳥獣捕獲業務委託事業として、西部猟友会森町分会へ委託し、銃及び箱わなによる捕獲を行ってきた。</p> <p>平成22年度から26年度まで過去5年間の実績は、捕獲頭数1,211頭、委託事業費16,311千円で、捕獲数、委託事業費ともに年々増加してきている。</p> <p>町及び有害鳥獣協議会の備品としてイノシシ用箱わな72基、シカ用箱わな9基、くくりわな20基を導入し、猟友会へ貸し出している。</p> <p>ニホンジカは、近年生息数が増加しているため、新たに町単独事業でシカ用の箱わなを購入し、銃とわなで捕獲を行っている。</p> <p>カモシカは、町内での目撃や死体処理の依頼は増加傾向にあり、町民からの被害報告もある。今後は生息・被害調査を継続し、個体数調整に向けた取組を強化していく。</p> <p>カワウ・アオサギについては、猟友会に銃捕獲を依頼し、生息数減少に努めている。</p>	<p>農林業被害が町全域に拡大したことに伴い、狩猟免許試験受験者が増え、わな免許所持者は増加しているが、免許所持者の高齢化が進んでいる。</p> <p>捕獲したイノシシは、捕獲従事者が約4割を自家消費、約6割を埋設処分しているが、埋設場所に苦慮している状況である。捕獲したイノシシの一部は「森町発B級グルメ、亥のちゃんドッグ」の名前でイノシシ肉のソーセージとして販売しているが、更に地域資源としての活用を検討する必要がある。</p> <p>ニホンジカ及びカモシカについては、どちらによる食害なのかも含め、被害実態の把握とニホンジカの捕獲方法の確立が急務となっている。</p> <p>カワウ及びアオサギについては、現状銃による駆除の方法のみの対応であるため、新たな捕獲方法を模索する必要がある。</p>

	従来講じてきた被害防止対策	課 題
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">防護柵等の設置に関する取組</p>	<p>平成18年度からイノシシ、ニホンジカ、ハクビシン等の被害に対し、町単独有害鳥獣被害防止対策事業として、電気柵、ワイヤーメッシュ柵等の設置費用に対し、2分の1以内、3万円を限度として助成を進めてきたが、山間地域等の設置を促進するため、27年度からは助成上限額を6万円とした。</p> <p>26年度までの過去3年間の助成実績は、103件、2,646千円となっている。</p> <p>また、23年度及び24年度には、鳥獣被害防止総合対策事業を活用し、町内の5箇所茶園にイノシシ侵入防止柵を設置した。設置箇所については効果を発揮している。</p>	<p>過疎化による若年層の減少と農林業の担い手不足により、被害防止対策に対する意欲が下がり、耕作や経営を放棄する事例が増えている。</p> <p>また、原材料価格の高騰や農業者の高齢化により、侵入防止柵設置の意欲が低下してきている。</p> <p>電気柵は、世帯ごとの設置が多く、適正な管理のため、草刈りや正しい取扱方法を徹底する必要がある。</p> <p>防護柵については、加害動物により設置方法が異なるため、状況に合った柵が設置できるよう住民に周知していく必要がある。</p> <p>さらに、地域ぐるみでの侵入防止柵の設置についても検討していく必要がある。</p> <p>鳥獣被害防止総合対策事業を活用した侵入防止柵の設置については、住民の要請に応じ費用対効果を確認の上、対応を検討する。</p>

(5) 今後の取組方針

平成26年度森町における対象鳥獣の被害総額は11,575千円、被害総面積で379aとなっている。

対象鳥獣による主な被害は、稲、茶、いも類、野菜、林産物等多岐にわたっている。

本防止計画作成にあたり、対象鳥獣による被害軽減目標を平成26年度の被害額・面積より1割減に設定することとする。

これまで森町では、有害鳥獣捕獲業務と有害鳥獣被害防止対策事業等により、捕獲と被害防除の両面から対策を行ってきた。この結果、被害額は減少しているものの、獣類の生息範囲が広がったことにより、捕獲頭数は増加傾向にある。

このため、今後はこれまでの捕獲数を維持する事に加え、下記の取組により被害軽減目標の達成を目指す。

1. 箱わなによる安全・効果的な捕獲の推進

(イノシシ・ニホンジカ)

イノシシ及びニホンジカの捕獲に対して、猟銃による捕獲とともに、比較的危険性が少なく効果的に捕獲できる、箱わなの捕獲体制を整備する。

2. 捕獲支援業務員の設置

有害鳥獣捕獲業務については、猟友会に業務を委託し多大な成果を上げているが、捕獲数の増加や箱わな数の増加に伴い、捕獲立会い等の管理業務が増加傾向にある。捕獲業務を安全・円滑に推進するため、シルバー人材センターに委託し、年間を通して2名の支援業務員を設置し、箱わなの管理や捕獲立会い等を行う。

3. 猟友会、農林業者への聴き取りなどによる分布や行動範囲の把握

(対象鳥獣全種)

4. 鳥獣被害についてアンケート調査を実施 (対象鳥獣全種)

鳥獣被害の実態を把握し、鳥獣の捕獲及び被害防止対策に活用する。

5. 地域懇談会の開催 (対象鳥獣全種)

地域住民自ら鳥獣被害防除の意識を持ち、地域で被害防止に取り組む合意形成を図ることで、地域が一体となり主体的に有害鳥獣を寄せ付けない集落づくりを目指す支援をする。また、防護柵を設置する畑に隣接する森林の整備等、効果的な防護柵の設置方法について検討する。

3. 対象鳥獣の捕獲等に関する事項

(1) 対象鳥獣の捕獲体制

西部猟友会森町分会との連携を密にし、効果的な捕獲を目指す。
被害対策実施隊の設置を検討する。

(2) その他捕獲に関する取組

年度	対象鳥獣	取組内容
28年度	イノシシ	西部猟友会森町分会に有害鳥獣捕獲業務を委託。 また、森町有害鳥獣対策協議会所有のイノシシ・ニホンジカ兼用箱わなを捕獲従事者である猟友会へ貸し出す。 狩猟免許試験及び他団体が主催する研修会の案内、初心者のための講習会を開催する。
	ニホンジカ	西部猟友会森町分会に有害鳥獣捕獲業務を委託。 また、森町有害鳥獣対策協議会所有のイノシシ・ニホンジカ兼用箱わなを捕獲従事者である猟友会へ貸し出す。 狩猟免許試験及び他団体が主催する研修会の案内、初心者のための講習会を開催する。
	カモシカ	被害状況及び生息状況の調査を継続し、防除対策のみでは被害防止が図れない場合、第二種特定鳥獣管理計画（カモシカ）等に基づく個体数調整の実施に向けて取り組む。
	カワウ アオサギ	西部猟友会森町分会に捕獲を依頼。
29年度 30年度	イノシシ ニホンジカ カモシカ カワウ アオサギ	同上

(3) 対象鳥獣の捕獲計画

捕獲計画数等の設定の考え方

静岡県第11次鳥獣保護管理事業計画を踏まえ、適正な捕獲を実施していく。

①イノシシ

森町における過去5年間の捕獲実績は、年ごとの変動があるが、近年イノシシが山間部だけでなく住宅区域にまで出没するようになり、町内全域に農林作物等の被害が広がり、特に平成24年度においては、捕獲数が前年度の169頭から355頭に急増した。当面今後も同程度の水準で推移すると見込まれるため、各年度の捕獲計画数を360頭とする。

②ニホンジカ

平成26年度に取り組んだ町内被害・捕獲情報マップ等により個体数の増加や分布域の拡大が確認されたことに伴い、被害地域が拡大していること、シカ用箱わなの導入により捕獲手段が増え27年度の捕獲数も20頭を超える見込みであること、農地周辺での目撃情報の増加等から、更なる農林作物への被害の拡大が懸念されるため各年度の捕獲計画数を30頭とする。

③カモシカ

町単独事業でカモシカの生息調査や被害調査を進め、第二種特定鳥獣管理計画（カモシカ）に基づく管理捕獲等に向けて取り組む。

④カワウ・アオサギ

年ごとに飛来数が変動するため、何羽が適正な捕獲羽数か不明なところがあるが、アユに対して被害が深刻化しており、捕獲を強化するため50羽と設定する。

①有害鳥獣捕獲実績表

対象鳥獣	有害鳥獣捕獲実績数(単位 頭、羽)				
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
イノシシ	200	170	355	238	248
ニホンジカ	4	12	3	5	13
カワウ	14	23	16	14	17
アオサギ	—	—	—	—	13

②対象鳥獣捕獲計画数

対象鳥獣	捕獲計画数等		
	28年度	29年度	30年度
イノシシ	360	360	360
ニホンジカ	30	30	30
カワウ アオサギ	50	50	50

捕獲等の取組内容
<p>銃、箱わな及びくくりわなを用いて、年間を通じイノシシ、ニホンジカを対象として有害捕獲を行う。また、猟期においても、被害状況により町内鳥獣保護区等におけるイノシシ、ニホンジカの有害捕獲を実施していく。</p> <p>また、稚アユを放流する春から夏にかけてカワウ・アオサギの活動が活発になるため、被害状況に応じて有害鳥獣捕獲の許可を県に対して申請し、捕獲活動を実施していく。</p>

(4) 許可権限委譲事項

対象地域	対象鳥獣
森町内全域	イノシシ・ニホンジカ権限委譲済み

4. 防護柵の設置その他の対象鳥獣の捕獲以外の被害防止施策に関する事項

(1) 侵入防止柵の整備計画

対象鳥獣	整備内容		
	28年度	29年度	30年度
イノシシ ニホンジカ カモシカ	<p>電気柵及びワイヤーメッシュ柵の設置事業は町単独事業を予定している。</p> <p>電気柵：6,000m (200m×30人分) ワイヤーメッシュ柵：1,000m (200m×5人分)</p>	<p>電気柵及びワイヤーメッシュ柵の設置事業は町単独事業を予定している。</p> <p>電気柵：6,000m (200m×30人分) ワイヤーメッシュ柵：1,000m (200m×5人分)</p> <p>住民等の要望量等を踏まえて、鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した整備も検討する。</p>	<p>電気柵及びワイヤーメッシュ柵の設置事業は町単独事業を予定している。</p> <p>電気柵：6,000m (200m×30人分) ワイヤーメッシュ柵：1,000m (200m×5人分)</p> <p>住民等の要望量等を踏まえて、鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した整備も検討する。</p>

(2) その他被害防止に関する取組

年度	対象鳥獣	取組内容
28年度	イノシシ	<p>農林業者への聴き取り調査を行い、被害実態を把握し、町内被害情報マップを作成する。また、生態調査を実施し、生態情報マップを作成し、情報の周知やマップを活用した総合的な対応策を検討する。</p> <p>一宮地区では、イノシシの被害防止対策としてわな猟免許の取得推進等に取り組んでいる。また、同地区でふじのくに美農里プロジェクト（国事業名：多面的機能支払交付金）に取り組む「一宮の水と環境を守る会」は、イノシシの隠れ場となる耕作放棄地の解消や発生防止に取り組んでいる。</p> <p>さらに、大規模に茶などを生産している草ヶ谷パイロット等5箇所では、国の事業を活用して侵入防止柵を設置し、農産物増産に向けて生産者がまとまって取り組んでいる。</p> <p>これらの取組を参考事例とし、さらに、他地域においても地域懇談会を開催して、鳥獣被害防止対策に、地域住民が主体的に取り組む体制を整備する。また、集落的な取組への誘導と維持管理方法を徹底するため、講習会を開催し、箱わなや電気柵等の安全で効果的な使用方法を学ぶ機会を提供する。</p> <p>また、遊休農地や里山の適切な管理、作物残さや未収穫農作物を農地に放置しないように啓発する。</p>
	ニホンジカ	<p>農林業者への聴き取り調査を行い、被害実態を把握し、町内被害情報マップを作成する。また、生態調査を実施し、生態情報マップを作成し、情報の周知やマップを活用した総合的な対応策を検討する。</p> <p>さらに、地域懇談会の開催を通じて、鳥獣被害防止対策に、地域住民が主体的に取り組む体制を整備する。また、集落的な取組への誘導と維持管理方法を徹底するため、講習会を開催し、箱わなや電気柵等の安全で効果的な使用方法を学ぶ機会を提供する。</p>

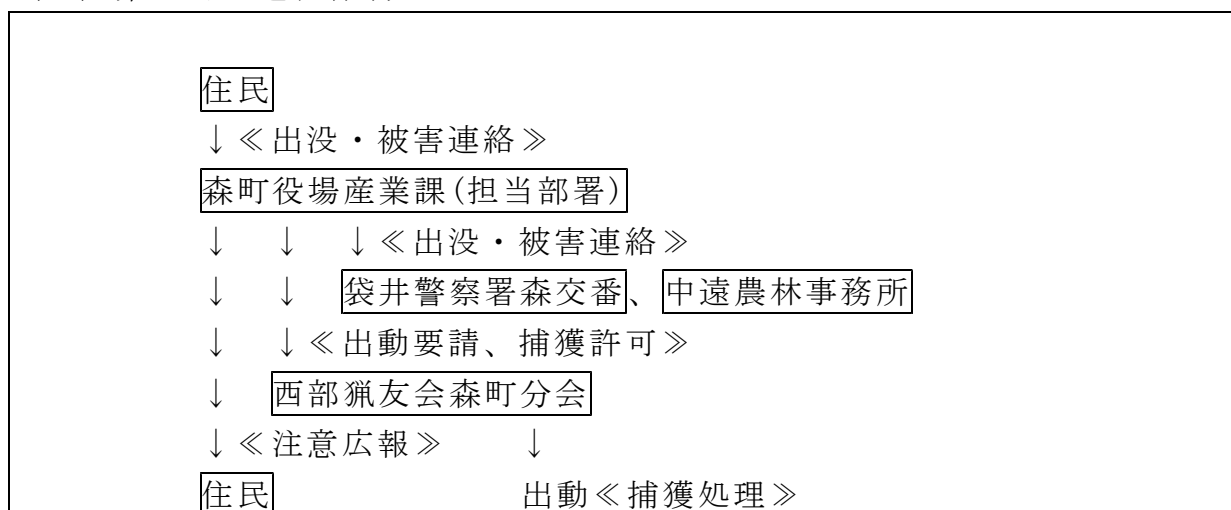
	カモシカ	農林業者への聴き取り調査を行い、被害実態を把握し、町内被害情報マップを作成する。その後、捕獲が必要と判断された場合、生息密度調査ほか、捕獲に必要な調査・計画の実施を検討する。
	カワウ アオサギ	被害を受けている者に聴き取り調査を行い、被害実態を把握し、捕獲者とともに対応策を協議する。 また、鳥の住処となっている箇所には追い払い等を実施していく。
29年度 30年度	イノシシ ニホンジカ カモシカ カワウ アオサギ	同上

5. 対象鳥獣による住民の生命、身体又は財産に係る被害が生じ、又は生じるおそれがある場合の対処に関する事項

(1) 関係機関等の役割

関係機関等の名称	役割
静岡県中遠農林事務所	助言・指導、捕獲許可
静岡県警袋井警察署森交番	助言・指導
森町役場産業課	出動要請、捕獲許可
西部猟友会森町分会	捕獲

(2) 緊急時の連絡体制



6. 被害防止施策の実施体制に関する事項

(1) 被害防止対策協議会に関する事項

被害防止対策協議会の名称	森町有害鳥獣対策協議会
構成機関の名称	役割
森町役場	協議会の運営・提言
中遠農林事務所	鳥獣被害防止に関する助言・指導
遠州中央農業協同組合	鳥獣被害防止に関する助言・指導
西部猟友会森町分会	鳥獣被害防除対策への協力
森町農業委員会	情報提供と被害対策への協力
森町森林組合	情報提供と被害対策への協力
一宮土地改良区	情報提供と被害対策への協力
薄場元気プロジェクト	情報提供と被害対策への協力
三倉地区町内会長連絡会	情報提供と被害対策への協力
天方地区町内会長連絡会	情報提供と被害対策への協力
一宮地区町内会長連絡会	情報提供と被害対策への協力
森地区町内会長連絡会	情報提供と被害対策への協力
飯田地区町内会長連絡会	情報提供と被害対策への協力
園田地区町内会長連絡会	情報提供と被害対策への協力
一宮の水と環境を守る会	情報提供と被害対策への協力
学識経験者(獣医)	鳥獣被害防止に関する助言・指導

(2) 関係機関に関する事項

関係機関の名称	役割
静岡県鳥獣保護管理員	鳥獣保護・管理に関する助言

(3) 鳥獣被害対策実施隊に関する事項

設置については、関係機関の意見を聴きながら、検討していく。

(4) その他被害防止施策の実施体制に関する事項

各種団体や町内会等においても積極的な参加を促し、集団での取組を進めていく。

7. 捕獲等をした対象鳥獣の処理に関する事項

捕獲した有害鳥獣は、捕獲後速やかに埋設処分を行うこととする。

イノシシ及びニホンジカについては、食肉等の利活用を目指し、森町有害鳥獣対策協議会において方策を検討する。

また、獣肉の処理加工施設についても住民からの要望等を踏まえ、補助事業を活用しての設置を検討する。

8. その他被害防止施策の実施に関し必要な事項

被害防止対策に関して、中遠地域鳥獣害対策連絡会と連携し、共同で講演会や情報交換会、研修会を開催する。